

辰野 勇

たのいさむ

株式会社モンベル
代表取締役会長
兼 C.E.O

登山用品メーカーから見る 自然との共存とは

1975年に登山用品メーカーとして株式会社モンベルを設立。

登山用品の開発、販売だけに留まらず、「モンベルクラブ」という会員制度を設け、会員を中心にアウトドア・ツアーを企画実施。

今年、カヤックと自転車、登山だけで海から山頂を目指す

「シートウーサミット (SEA TO SUMMIT)」を

「エコツーリズム国際大会2013 in 鳥取 (10月19日～21日)」と同時開催する。

持続可能な観光を目指す中で、

今ある環境を次の世代へ渡していくためにクリアすべき課題についてお聞きしました。



環境保全への意識を持つたきっかけ

山田 エコツーリズムとの関わりの前に、登山における環境保全の重要性について意識されたのはいつ頃ですか。

辰野 スイスのマッターホルンやアイガーの北壁など、日本人で誰も登ることができなかつた岸壁を一生懸命に登つた若い頃がありました。偉

越な言い方ですが、その頃は自然との融合というよりも、自然に対する挑戦で登っていました。1800mの垂直の壁を前に、多くの人がトライして命を落としていく、そういう所だから登つてみたい、更に大きさに言えば、自然を克服したいという一心でした。

しかし、それは自然を破壊することにつながりかねないことで、岸壁を登るためには岩の割れ目にハーケン(釘)を打つたり、岩に穴を開けてボルトを打ち込むという作業が伴つていました。最初に岸壁を登る人はハーケンを打つて登りますが、そのままハーケンを利用すれば、二人目は非常に容易に登れるのです。その岸壁は一人目にとつてだけの挑戦の対象となり、二人目は全然違うものになってしまいます。このような事を受けてアメリカでは「リープ・ノーワークレス(Leave No Trace)」という言葉が提唱され、後に何も残さない、自然を保護するためにには何も手をつけずにおく方がいいのでしょうか、自然は自然のためだけにあるのではなく、我々人間も動物の一つですから、それらが地球環境の中でどう共生していくか、それがエコツーリズムの最も肝になる議論だと思います。

モンベルクラブは
想いを形にする場

山田 モンベルを設立され、事業活動の中で自然環境の保全、社会貢献活動もさせてもらっていますね。

辰野 活動をしていると言うには、本当に恥ずかしいほど僅かなことしかできていませんが、世の中でC



モンベルストアの外観

山田 欧米でガイド業が生業として成立しているのは、賃金の高さと長年働くことのできる体制があるからですね。私自身もツエルマットでは公認スキー教師であり、トレッキン グガイドをしていますが、彼らの組織経営のあり方は素晴らしいと思いま す。

内所がありますが、もう少しガイド業というソフトの部分をシステム化し、ボランティアでの対応からは脱却できるといいですね。

一方で自然が好きで守りたい、自然保護はこうあるべきという原理主義的な方、僕のポジションはこの真ん中にいて、そのバランスが大事だと思っています。金儲け主義だけでもなければ、自然をただ単に守ればいい

ト「シートウーサミット」を皆生温泉で初めて開催しました。皆さんには、シートウーサミットは競走じゃないからゆっくり自然を楽しみながら頂上を目指そうと言ったがら、実は一生懸命、自分は練習をして「これなら自分勝てるんちがうか」と非常に個人的な思いで開催したんです。

A black and white photograph of Tatsuo Minamino. He is a middle-aged man with short, light-colored hair and bangs. He is wearing a light-colored, button-down shirt. He is smiling and looking slightly to his right. The background consists of a wall made of large, irregular stones or rocks.

1947年大阪府堺市に生まれ、少年時代は山一筋の青春を過ごす。21歳でアイガー北壁日本人第二登頂を果たすなど、名実ともに日本のトップクライマーとなり、1975年の28歳の誕生日に登山用品メーカー、株式会社モンベルを設立。事業を拡大する傍ら、冒険家としても活躍。近年は社会貢献活動として身障者カヌー大会開催や、災害支援にも精力的に活動を行っている。

辰野 勇 (たつの いさむ)

**ガイド業を含む
多様なライフスタイル
アウトドア屯田兵へ**

SRと言わざることを行つてゐると
したら、それは「モンベルクラブ」で
す。年会費1500円で会員が43万
人程、全国にいらっしゃいます。会
員の皆様からお預かりした会費の一
部を「モンベルクラブ・ファンド」と
して基金化し、自然保護や社会福祉、
冒険・探検、災害支援などの活動を
支援しています。

発信する力、方法を持つていなけ
れば、いくら想いを形にしたいと
思つても難しいでしよう。想いに共
鳴してくれる人の輪を広げることが
大事で、モンベルクラブはまさにそ
のための場なのです。

山田 モンベルクラブは、お客様と
いうより同志のような感じですね。
発信力だけでなく一緒に活動する力
を持っていらっしゃる。



上／モンベルクラブ・ファンドの
自然保護活動の様子

持続可能な
観光地づくりへの課題

山田 エコツーリズム地域として成り立つためには自立すること、持続可能な形であることが大事だと思いますが、海外だと成立しているのに、国内だと地域としても事業としても弱いところがあるのが現状です。どういったところが問題、課題だと思われますか。

辰野 少し話が離れますが、先日、北海道の旭山動物園の園長さんと対談しました。旭山動物園がチームになり、多くのお客様がオランウータンのロープ渡りや、ホッキョクグマのジャンプなどを目当てに訪れました。すると、短い滞在時間の中で人が多すぎて目当ての場面を見る事ができなかつたり、あるいはホッキョ

認識する必要があると思います。
山田 オーバーユースの問題等、利活用と保全・保護のバランスだと思います。うのですが、どうしても日本の場合、入り込み客数などの数が優先事項にあり、持続可能な形やお客様の満足度を高めることが後回しになっています。各地をご覧になられて、ここはエコツーリズムとして上手くいっていると思われる地域はありますか。

辰野 海外で象徴的なのはアメリカのグランドキャニオンで、一日に谷に入れる人數を制限しており、既得権者として10数社のラフティング事業者に、年間利用できる人數が割り当てられています。その権利は、けつ

日本では上高地などで、環境保全協力金として1000円くらい取つてもらいたいと思います。協力金にトイレの使用料も含めれば、トイレを使う度に支払うという手間が省けます。そして、中小学生、高齢の方、所得の低い方等には国が補助をするというやり方が僕はいいと思つています。

山田 日本は仕組みや制度、法律等の不備がまだまだ多いですね。

辰野 そうですね、上高地はマイカーを規制していますが、タクシーやバスは入っています。なぜタクシーやバスは入つていて、マイカーはだめなのか。既得権に、どう対応していくかが問題です。



「エニツーリズム国際大会
2013 in 鳥取」への
メッセージ

いということでもなく、いい形で人間と社会経済と自然環境の保全を目標にしたい。ガイド業も同じですね。そして、これをずっと推し進めていくべき、自然環境を保全することが実は金儲けにつながることに地域全体で思いが至るはずなんです。

山田 バランスを保つ中で若い人のライフスタイルに、もっと多様性が生まれるといいと思います。

認識する必要があると思います。
山田 オーバーユースの問題等、利
用と保全・保護のバランスだと思
うのですが、どうしても日本の場合
入り込み客数などの数が優先事項に
あり、持続可能な形やお客様の満足
度を高めることが後回しになってしまいます。各地をご覧になられて、ここ
はエコツーリズムとして上手くいっ
ていると思われる地域はありますか。
辰野 海外で象徴的なのはアメリカ
のグランドキャニオンで、一日に谷
に入れる人数を制限しており、既得
権者として10数社のラフティング事
業者に、年間利用できる人数が割り
当てられています。その権利は、けつ

日本では上高地などで、環境保全協力金として1000円くらい取つていいと思います。協力金にトイレの使用料も含めれば、トイレを使う度に支払うという手間が省けます。そして、小学生、高齢の方、所得の低い方等には国が補助をするというやり方が僕はいいと思っています。

山田 日本は仕組みや制度、法律等の不備がまだまだ多いですね。

辰野 そうですね、上高地はマイカーを規制していますが、タクシーやバスは入っています。なぜタクシーいやバスは良くてマイカーはだめなのか。要するに日本の場合、地元事業者の既得権に、どう対応していくかが制



モンベルが主催するアウトドアチャレンジツアード

こうな高値で売買されます。もし個人がブランドキャニオンを流れる川を下るために許可を申請しても10年以上待たれます。それだけ予約でうまっているのです。先日、富士山が世界文化遺産に登録され、入山料を取る動きがありますが、入山制限までは至っていません。その背景には皆が平等でなくてはならないという日本人の民族性があるのでしょう。

山田 日本の場合、数が優先ですが、海外では数量制限をしても客単価が高いので十分利益が得られています。

辰野 ところが日本ではビジネスを前にださない、だせない社会風土がありますね。お金のことを言うとよ

度の質を高めるのだと思います。元の方の気持ちは分かりますが、経済と環境の単純な網引きではなく、共存していくための仕組みづくりを、行政を含めて考える必要があります。

山田 地域のあり方についてもともと議論し、地元からもそういう考えが出てくるべきだと思います。私が住んでいるスイスのツェルマットは住民が生活のあり方や、環境などを高めるかについて考え、カーフリー・リゾートという自動車が無い町を実現したからこそ、世界中からエコツーリズムの先進地としても認められ、評価されているのだと思います。

モンベルが主催するアウトドアチャレンジツアーアイ